

LINN LP-12 の再構成(34) —電源部のアップグレード—

1. 始めに

これまでの経過としては、LP-12 の電源の外出し、フォノケーブルの交換、LP-12 本体のカルーセルキットの導入や TruPhase 導入の効果などを実施してきました。今回、さらに電源部のアップグレードや、注油など総合的な調整を行うことにしました。

2. LINN LP-12 の再構成の実施内容と試聴方法

今回の改造の目的は低音領域の伸びと引き締めにあります。

その一つは電源部のアップグレードであり、モーターのコッキングを含む駆動部と回転部の振動を減らすために給電量を増やし、逆起電流からくる歪みを減らすように試みています。

再生経路は、[LINN LP-12 の再構成\(32\)](#)のとおりです。

試聴音源は JBL4350A の再構成(3)と同様です。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

ゲオルグ・フドリッヒ・ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

PHILIPS PC-1571~2

J.S.Bach チェロ組曲

モーリス・ジャンドロン

3. LINN LP-12 の再構成後の試聴結果

Sonatas & Partitas は、切れ味がよく、濁りのないボウイングとスタジオの間接音まで聴き取れます。

選帝侯のソナタは、左手の打鍵の力強さと全体域のバランスがよくなっています。
ワルキューレは、分離がよく、歌手とオーケストラの位置関係が明瞭で、ブラスや
低弦の迫力が違ってきました。

メサイアは、合唱の分離がよく、ソプラノもバスも声に張りがあり、通奏低音が明
瞭です。

チェロ組曲は全体域のバランスがよく、ナチュラルで胴鳴りもしっかり聴き取れま
す。

4. まとめ

改造の目的である低音領域の伸びと引き締めが効果を発揮し、全体的に音の揺らぎ
が減って、さらにバランスが取れてきました。

以上